

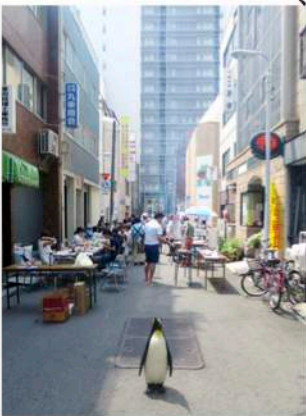
# 東上野暑気払い乱入の巻



上野、昭和通りを行き交う車の隙間から向こう側を伺うとね、旧タカラホテルの跡地に立ったビルの間から、のろしが上がったのが見えるんだ。コリアンタウンの横っちょ、カラークー

ンが塞いでる裏通り。「よお〜ペンギンさん、今年も来てくれたね」「ペンギン、ペンギン」「ほら、あそこに座って。生ビールで良いかな？」。僕が挨拶をする間もな、

沢山のテーブルを囲む人々が、とびきりの笑顔で迎えてくれる。



たまたま通り掛かったのが三年前、記念撮影だけさせて貰うはずが、まあまあ飲んでいきな

よって進められ、気が付けば僕の夏の大切な恒例行事になっちゃった。東上野：じやないんだな、昔の町名の御徒町三丁目町会なんだな。だからカラークー

ンには徒三て書いてあるんだ。小道の両側はビルばかりだけど、お父さんお爺さんの代から住んでる人が多い。しかも世代を超えてみんな仲良し。

水鉄砲に夢中の悪戯っ子と、極上BBQとお酒トッサリで大宴会な大人が大集合、下町の暑気払い。「次は下谷神社のお祭り臨時においでよ」。やっぱり上野は僕の心の駅なんだ。

# 高野金次郎商店

親切第一 平成29年盛夏号

版元：東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-2

fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力：高島平電腦研究所、築地河岸工房

関連ウェブ：各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索するとポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.booo.jp/

勝手にお気に入り5

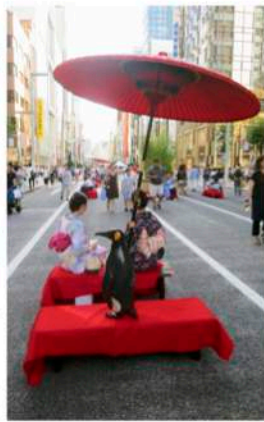
大好きな明治以降の日本

画家ベスト5

- ・ 竹内栖鳳
- ・ 上村松園
- ・ 小林古徑
- ・ 小村雪岱
- ・ 北野恒富

装幀作家と言われそうだけど橋口五葉。北野恒富は十一月に千葉市美術館で回顧展があるのでお忘れな。

# 銀の輔銀座千枚



浴衣デビュー

上野が僕の心の駅なら、銀座は僕の心の街。春夏秋冬朝から晩まで、上気でも大雪でも、いつも僕を必ずウキウキさせてくれる街さ。最近

は日本語以外の言葉を聞くことが多くなった銀座通りが、

たった一日、デジャブのように変わってしまう時、それが『ゆかたで銀座』の日。

いつもはパイプ椅子とバラソルのホコ天が、緋毛氈の縁台と真っ赤な日除けの和傘になって、水の彫刻やら出張水族館やら、涼やかな風景に大変身脇を覗くとお茶席があつたりしてね、そこを浴衣姿の老若男女がそぞろ歩いてるとこは平成の銀座だよなえって、いつも思うんだ。

客もいる。粋な揃いの浴衣に身を包んだ資生堂の人々を見ると、おや、歌舞伎座給見ですか？なんて声を掛けたくなる。普段も和服を着こなした人がもつと歩く街になるといいな。



# 私家版落語的夏物語

春風のようにふわっと心の中に入ってくる志ん朝さんの落語だけど、僕の中では夏の人。夏休みのお約束だった、先代助六さんと始めた住吉踊りの楽しさ、そして何と言っても初夏の風物詩、鳥越祭での出会い、このふたつの強烈な思い出が、志ん朝は夏って印象を植え付けた。

この発端は百瀬さん。教え切れない程お世話になった学校の大先輩が、自作で作る祭りの神酒所に、「ペンギンを持っておいでよ」って、毎年誘ってくれた。あの百瀬さんが、トレードマークの濃紺のジャケットと帽子を身に付けず、浴衣がけになる唯一の日なんだ。

運送会社の広い配送センターを借り切って設えた神酒所には、サイデンス、テッカー先生をメインゲストに、名編集者、作家、映画監督、俳優、格闘家、歌手などなど、各界の有名人がやってくる。大親友の水丸さんの姿も見える。そのたびに僕を紹介し、銀の輔とツーショット写真を撮らせて頂いた。

そんな或る年、春風の嘶家がやってきた。いつもなら「あの方と撮りたいのですが」百瀬さんに頼んだりするのに、僕は固まってしまった。だってあの古今亭志ん朝が目と鼻の先にいるんだ！ニコニコ笑いながら周囲の人と話しをしているの

に、そばに寄れない。いつも客席から見ただけの憧れの人が、もう手が届きそうなのに座ってるのに。

「志ん朝さんと撮らなくちゃ」と自配り抜群の百瀬さんが助け舟を出してくれた。着物姿の志ん朝は格好良かった！銀の輔に一瞬驚いたけど、その驚いた顔がまたイカした。「大ファンなんです」の一言しか言えなかった。そうだった、志ん朝さんは写真もカメラも好きなんだから、落語のことじゃなくても、そんな話をすれば良かったのに、初恋の初デートみたいに緊張して、僕はほぼ金縛り状態だ。でも夢のような一瞬の出来事だった。

神酒所のフィナーレである鏡開きが終わり、志ん朝さんは退席。暫くして僕も神酒所を後にした。あの一瞬を反芻しな



が浅草橋駅に向かう途中、老舗洋食屋の前を通ると、店先の縁台に志ん朝さんが座ってる。僕の顔を見つけると、持っていた耐ハイ入りのプラカップを持ち上げ、ニコリ笑った。僕は会釈するのが精一杯。近寄って挨拶して、あわよくば一緒に飲んじゃおうなんて機転は、雲の彼方…。



それから何年もした後、志ん朝さんは旅立ってしまった。後に談志さんにも会わせてくれた百瀬さんも亡くなり、それから一度も鳥越祭には行っていない。

\*\*\*

現在湯島天神で催される落語協会の謝祭、以前は毎年八月に谷中全生庵で円朝まつりとして行われていた。最初は感謝してみたいなタイトルだったように思う。スタートしたのが、志ん朝さんが亡くなった翌年だった。落語中興の祖・山朝師匠の菩提寺の境内には、嘶家さんや芸人さんが一杯、気軽にサインや写真に応じる画期的なイベント。

もちろん僕は銀の輔と一緒に出勤し、片っ端から声を掛けてツーショットを撮り、翌年その写真にサインを貰うという完璧なシステムも構築した。第一回実行委員長だった志ん五五さんを始め、円朝さん、歌さん、喜多八さん等、鬼籍に入られた方々もいることに時の流れを感じる。

その第一回の時、フარიと円藏さんがやってきた。揃いの浴衣ではなく普段着なのが、いかにも出番から駆け付けてきた感じ。

じ。慌てて声を掛けて銀の輔を見せたら、大笑いしながらもバチリ。円鏡時代、僕がテレビで最初に見て好きになった嘶家なんだ。お笑い頭の体操の狂言回しつ振りも最高だった。

その後、なかなか合うチャンスがなく、謝祭になってから、よしっ！と写真を差し上げたら、しほし眺めてから「こんなこともあったねえ」と笑い出し、「悪いねえ、今日は何も持っていないだ」って、帯に挟んでた扇子をポンとくれた。

お礼を言っただけで開いてみたら、マジックで大書した固有名詞の風。源平盛衰記のアンチヨコだった！後先考えないサービスピ精神の塊を思い知った晩夏の出来事だった。

高級句誌  
**俳人同様**  
 Haijin Doyo  
 三朝庵梅里・筆  
 SAN CHO AN BAI RI



浅草御門と郡代屋敷、袂に控える浅草橋の、下を流るる神田川、沿って向かうは筋違御門、今は名を変え万世橋に、至る一方通行が、土手由来の柳原、通りと呼ばれる柳の並木、日当たり良好女学館、建て替え更地も点々と、左衛門橋を横目にし、江戸の昔に洪水防止、築いた土手の影は、名のみ残りし柳原、

玉垣は昔の名前で出ています 梅里

甲虫もポテチもジュースも販売中



首すくめ高速床下早歩き

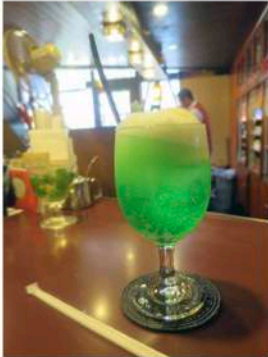


当時並んだ古着屋は、服飾関係大小の、会社のビルに変身し、それももはやの工事中、当時偲ぶか白壁の、公衆便所は美倉橋、ゲストハウスは当世風、ちぎり屋看板愛でたなら、大門通りのプレートに、心揺れるは霞町の末廣神社の玉垣か、邪念を払い、汗拭いて、和泉橋にて小休止、昭和通りに閉ざされた、道の続

めくり、万世橋となりけり。きほ歩道橋、高速道路が蓋をする、揺れる小道を急ぎ足、再び地面と再開し、中古カメラに喫茶店、ネー(人)屋ホタン屋人心地、戦前建物見え隠れ、通り随一穏やかな、神田須田町岩本町、なれど時代は変わりゆく、カフエにホテルにメイド系、羅紗屋生地屋が軒連ねたと、聞く隆盛は消え去りて、古き神社の玉垣を、愛でて歩を進め締

柳原通りの夏旅

ロン毛断ちテクノカットの柳かな



涼し気な緑の泡に励まされ



こ褒美は橋の袂か柳原

# 宝重萬塚南

ミナミオオツカヨロズ

チョウホウ

## 編外番口北

東京大塚カウンター異聞  
K'sバーの人々

「あの、すみません、ペンギンさんで、あなたですか?」と可愛い子が尋ねてきたのは、いつのことだったろう?まだ暑さが本格化する前だったか。

\*\*\*

「ペンギンさん、お久しぶりですねえ」。近頃は喫茶店でもまだ営業開始しない朝七時から開いてる近所のバー・Kのマスター、鐘ヶ淵さんが、笑顔で迎えてくれる。

「ですねえ、この間来たのはいつでしたっけ?」「ほら、可愛いお嬢さんが道案内に來たってお礼にいらした時ですよ。」「あれ、お礼じゃないです。どっちかという苦情です」。思い出した、二ヶ月くら

い前、確かに來たんだ。買物か?って思ったら、「これから浅草に行くんですけど、美味しい店を教えてください」って何?そりゃ僕は馬鹿みたいに街を歩いてるし、下町には親父の友達からあちこちに連れ回され、土地勘もある。でもね、うちはガラス屋で、ペンギングッズを売る店であって、東京観光案内所じゃないのだ。

「でも暫くしたらあの子から手紙が来て、ペンギンさんが教えてくれたお店は、中華屋も喫茶店も美味しかったって喜んでましたよ。」「ああそうですか。」「次来る時はお土産を持って行くって...」「あつ...そうですか。」「時間があつたらゆつくり話が聞きたいそうですよ。」「それはどうも有難うございます。じゃあ次はとっておきの店を教えちゃおうかな、へへへ。」「フーフ、鼻の下が伸びてますよ。もう、食えないおじさんだ。」「そうそう、こないだの雪大変だったでしょう。」「そう七月の下旬、豊島区を中心に凄まじい雪が降ったんだ。

「ペンギン玉くらい氷の塊でしたからね、車の屋根が凹んだとか、物干しやカーポートの屋根に穴が開いたって話を聞きましたよ。」「お忙しかつたんじゃないですか?」「いやあ、毎日毎日網戸の張替えをしてました。めったに仕事しない日曜日まで、そりやなかなかお会い出来ない訳ですなあ。アタシもこれまで経験ない現象でした。」「戦前から大塚に住む人のお宅に仕事に行つたんですけど、生まれて初めてだつて」。

「それと大変です。大塚ビルがよいよいよ...」という僕の言葉を遮って、「解体工事が始まりましたね」と続けた鐘ヶ淵さん。「マックが無くなり、くすりの福太郎が撤退して、おかしいなあと思つてたんですが、来るべき時が來たということでしょうか。」「耐震補強とか、色々取り沙汰されてましたもんね。」「白木屋百貨店の分店として昭和十二年に竣工したのが、その前身。設計は、白木屋本店や朝日新聞社、広島市民球場などを手掛けた建築界の重

鎮・石本喜久治。その建築事務所には、詩人の立原道造が所属していたという。」「確か石本さんが設計した建物で現存する数少ない作品と聞きましたよ。」「s、よくぞ存知ですね、ペンギンさん。」「大塚ビルには時々仕事に行つたんです。このビルの地下にあった電気室の人が、昔の図面や資料を集めることに熱心で、話を聞いたことがあるんです。」「池袋より先に出來た百貨店として白木屋が誕生し、戦中戦後の混乱期を経て、その後に静岡資本の松菱アパートになり、それも撤退して、昭和三十四年、大塚ビルになった。

「モダンな食堂もあつたんですよ。先の空襲を乗り越えて、恐らく大塚に残る唯一の戦前建築ですからねえ。」「終戦後、高台にある巣鴨学園か

らも見えたそうですね。」「大塚も焼け野原でしたからね。」「さつき話した戦前から大塚に住む方によると、百貨店時代、上の方の階に「カーポートみたいな乗り物があつたか。」「へえ、それはアタシも知りませんよ。ここは想像以上にハイカラな街だったのかも知れませんが、物知りの鐘ヶ淵さんも感慨深げだ。」「部屋のドアは木製だったし、ドアノブは真鍮でしたよ。塔屋の内側の階段も見学しました。」「それは貴重な体験をしましたね」と流石の鐘ヶ淵さんも溜息をつく。「変わりますねえ、この街も...」

\*\*\*

街の一大事と来てしまつたバー・K。考えたからこそ話を出る人は、鐘ヶ淵さんしかないかも知れない...

### 編集後記のようなもの

このバタバタは秋になつても続きそうです。次号ではライブの詳細をお伝えしますので、よろしくです。★配布協力感謝・千駄木・古書ぼろろ、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社。浅草・珈琲アロマ。